

(案)

令和4年度の献血の推進に関する計画(案)に対する意見募集結果について

令和3年12月
厚生労働省医薬・生活衛生局
血液対策課

令和4年度の献血の推進に関する計画(案)について、令和3年11月4日から令和3年11月18日まで電子政府の総合窓口(e-Gov)に掲載することを通じて御意見を募集したところ、10件の御意見(うち今回の意見募集と直接関係しない御意見4件)をいただきました。

今般、お寄せいただいた御意見とそれに対する回答については、別添のとおりです。なお、いただいた御意見については、適宜要約した上で記載しております。

今後とも厚生労働行政の推進に御協力いただけますよう、よろしく願いいたします。

令和4年度の献血の推進に関する計画(案)に関する意見募集に寄せられた御意見とそれに対する考え方

○ 意見募集期間 令和3年11月4日～令和3年11月18日

番号	御意見	御意見に対する考え方
1	欧州滞在経験者の献血制限は、解除していいのではないか。	採血基準については、本計画案において「国は、献血者の健康保護を第一に考慮しつつ、献血に推進及び血液の有効利用の観点から、採血基準の見直しを検討する。」こととしています。欧州滞在経験者の献血制限は変異型クロイツフェルト・ヤコブ病対策の一環として設けられております。新たな科学的知見が得られた場合等には、現在の献血制限が見直されることも考えられます。
2	国民の健康増進に有用であるため、血液検査結果通知の内容拡充が望ましい。特に尿酸値の通知を希望する。 全国的なキャンペーン等の実施に特段反対は無いが、適切な運営を行われたい。若年層、幼少期の子供とその親を対象とした普及啓発についても特段反対は無い。献血セミナーについて費用対効果的に有用に思われないが、パンフレットなどを時々配布するのは否定しないが、芸能プロダクション等にタレントの報酬が流れるようなものについては作成を行わないようにされたい。	日本赤十字社では、採血に際して献血者の健康管理に資する検査を行い、献血者の希望を確認してその結果を通知しております。 また、普及啓発については、本計画案の「二 献血推進のための施策」において記載のあるとおり、「国民全般を対象とした普及啓発」、「若年層を対象とした普及啓発」、「幼少期の子供とその親を対象とした普及啓発」を対象に、様々な手段を用いて普及啓発を行っております。 頂いたご意見は、日本赤十字社に提供するとともに、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。
3	献血ルームについての苦情の受付窓口などを設けるべき。インターネット上のものでもよいが、献血ルームについての苦情受付窓口と明確に示された窓口が設けられることが望ましい。また、情報については定期的に国と意見交換するとよい。 働いている人向けという様な事を明示して、週平日に1日だけ午後10時程度まで開いているような日を設けると献血者の開拓、献血頻度向上が図れるのではないか。	本計画案の「第2 2 (2)ア 献血者が安心して献血できる環境の整備」において、献血者等に不快の念を与えない、要望を把握する等の環境整備を記載しております。日本赤十字社では、全ての血液センターのホームページに「お問い合わせ」用のフォームを設けているほか、献血ルームの電話番号はすべて開示しており、お問い合わせいただける体制となっております。また、お問い合わせ専用の電話番号を掲載している血液センターもあるなど、いつでも献血者および一般の方が問合せやご意見を寄せられるような体制としています。 また、「第2 2 (2)イ 献血者の利便性の向上」において、全ての献血者を対象に、地域の実情に応じた献血受入時間帯の設定に積極的に取り組む旨記載しております。 頂いたご意見は、日本赤十字社に提供するとともに、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。
4	随所に「国民」という用語が見られるが、献血に参加できるのは日本国民のみであり、外国人は対象外なのか？もし外国人も献血に参加できるのであれば、外国人を対象にした普及啓発等についても言及するのが望ましい。	献血については、外国人の方も受け入れております。 頂いた普及啓発に係るご意見は、日本赤十字社に提供するとともに、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。

番号	御意見	御意見に対する考え方
5	<p>前回の意見募集において、血液検査結果の通知サービスの充実、特に尿酸値の通知を検討頂きたいという意見に対して、頂いたご意見は、日本赤十字社に提供するとともに、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせて頂くと回答しているが、その後どのような検討が行われたのか。私のまわりは、特に尿酸値を気にしている者が多く、検査結果通知されるなら献血に協力したいと言っている。検討内容、今後の方針及び実現可能性について教えて欲しい。</p>	<p>前回頂いたご意見は日本赤十字社に提供し、通知サービスも含め、献血推進については包括的に議論しております。 今回頂いたご意見についても、日本赤十字社に提供するとともに、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。</p>
6	<p>現場の方から「必要な血液型の献血協力者が来てくれるとは限らず困ることがある」との声がある。 各都道府県ごとに、天気予報のように必要な血液型を表示しTwitterなどのSNSや公式サイトの表示、深刻ならNHKや各地放送局に協力を頼み告知することはできないか？ かなり予算が必要な新規システム構築になるかもしれないが、ワクチン対応のような急場のものではなく長期間使うことになるもの。投資する価値は高いと考える。 また、記念品については、漫画・アニメなどオタク向けコラボは大変良いものだが、記念品がポスターというのは少し考慮の余地がある。クリアファイルなど実用面もある品に変えて絵柄もアニメそのままではなくファンアート風のおしゃれなものにしたり、マスコットやキーホルダーなどの小物にしてコレクション性を持たせたりと工夫の余地はあると考える。 ただ、記念品に凝り過ぎて現場で働く方々に資金が回らなくなるとは本末転倒ですので無理な高級化路線は避けていただきたい。</p>	<p>日本赤十字社では、自社のシステムにより献血者数及び輸血用血液製剤の在庫量のモニター等を綿密に行っております。その上で血液センターごとにHPやSNS他を活用し、平時から御協力をお願いをしております。また、安定共有に不安が生じる危険性がある場合は、新聞告知、テレビ、ラジオ等での放送を行っております。 記念品のご意見も含めて、頂いたご意見は、日本赤十字社に提供するとともに、今後の施策の検討を行うに当たっての参考とさせていただきます。</p>